

昨今めまぐるしいスピードで技術革新が進んでいる。  
こうした技術は社会への恵みを与える一方で、  
我々は距離ゼロで見えない全世界の攻撃者と  
対峙していることを改めて認識する必要がある。

# サイバーセキュリティトレンド 2016



NTTソフトウェア株式会社

クラウド&セキュリティ事業部

TEL : 045-212-7577

Email : [cs-trend@cs.ntts.co.jp](mailto:cs-trend@cs.ntts.co.jp)

URL : <https://www.ntts.co.jp/products/cs-trend>

本資料に掲載されている会社名、製品名などの固有名詞は、一般に該当する会社もしくは組織の商標または登録商標です。

●NTTソフトウェアは環境保護に取り組んでいます。

Copyright© 2015 NTT Software Corporation

NTT Software Corporation



# サイバーセキュリティトレンド 2016

## 01 新たなボーダレス時代が到来し、 サイバーフィジカルセキュリティが進化する

インターネットの普及は、国を超えたリージョンのボーダレスから、あらゆるものがインターネットにつながる新たなボーダレス時代へと導いている。自動運転車、制御システムなどもインターネット経由でアクセス可能になり、人命に関わる脅威も出現する。IoTの発展にはセキュリティ対策は欠かせない。

## 02 標的型攻撃が益々深刻化し、 サプライチェーンでの対策が求められる

攻撃者は金銭目的のサイバー攻撃を仕掛けるため、組織化、戦略化が益々進む。標的型攻撃はセキュリティ対策が十分ではない企業、組織に狙いを定める。取引相手や関連組織を踏み台とした攻撃が益々進む。サプライチェーン全体の中で、セキュリティ対策を実施していく必要がある。

## 03 業界内/間の連携による セキュリティ対策が強化される

攻撃者側の分業と協業により組織化が進む一方、防御側の連携はまだ不十分な状況にある。益々巧妙化、悪質化するサイバー攻撃に対応するためには、防御側も情報共有、技術・サービスの連携をより高度に進めていく必要がある。セキュリティベンダは、相次いで協業を発表している。

## 04 オープンソースソフトウェアや 多様化するアプリケーションの脆弱性と それを狙うマルウェアが拡大する

昨年度は、Heartbleed、Struts、Shellshock等、OSSの脆弱性が突如露見し、その対策に追われた。OSSが社会インフラとして広く活用されているため、その脆弱性管理は重要事項である。今後も脆弱性が突如発見される事象は止むことはなく、特に、ライフライン、ミッションクリティカルなサービスを狙うマルウェアが拡大する。

## 05 プライバシ保護とデータ利活用の 対策が進化する

日本ではマイナンバーの本格利用、改正個人情報保護法の施行が控えており、プライバシー保護技術が重要となってくる。米国では通信監視プログラムPRISMの存在が明らかになってから、大規模な盗聴行為対策技術も着目を浴びている。一方、データ利活用ニーズもビッグデータ分析技術と相まって顕在化し、プライバシー保護に配慮したデータ利活用の対策が進む。

## 06 モバイル社会が益々進化し、 セキュリティと利便性を両立させる 対策が求められる

ビジネススピードが求められる中、ワークライフバランス、サテライトオフィス、テレワーク等のビジネス環境の多様化、スマホ/タブレット端末のビジネス利用も拡大し、セキュリティ不安を払拭するような利便性の優れたソリューションが求められる。

## 07 セキュリティ技術者の不足が益々 深刻化し、セキュリティアウトソース ビジネスが成長する

日本では、セキュリティ有スキル者が16万人不足している。益々巧妙化するサイバー攻撃に対峙するためには、セキュリティ技術者の育成が喫緊の課題である。一方、標的型攻撃等による被害も深刻化し、セキュリティ対策に時間的な猶予が許されないケースが多発する。そうしたニーズに応えるセキュリティアウトソースが求められる。